

Feel the energy!

2017年もパリは人々を惹きつけ、また驚かせてくれます。訪れる人々はますます温かくお迎えし、より革新的に、よりエコ・コンシャスに、より賑やかに、21世紀の都パリは輝きを増しつつ変貌を続けます。とりわけ文化イベントの充実ぶりは特筆もので、間違いなくパリの第一の切り札といえるでしょう。さまざまな展覧会イベント、格式高い、あるいはユニークな新しい施設のオープン……。美術館、おしゃれなバー、画廊、デザインホテル、歴史的建造物、人気のレストランなど、パリはかつてなく注目を集め、パリジャンだけでなく観光客にもサプライズを与え続けています。

イベントの生まれる街パリ パリでは一年を通じて、あらゆる領域にわたるイベントが毎日300近く開催されています。最も人気が高いイベントに挙げられるのが音楽の日Fête de la Musiqueや美術館の夜la Nuit des musées、文化遺産の日les Journées du Patrimoine、革命記念日le 14 Juilletの花火、セーヌ河岸をビーチに変えてしまう夏のイベント、パリ・プラージュParis-Plagesや市内各地に夜通し多くの芸術作品が展示されるラ・ニユイ・ブランシユa Nuit Blanche。シャンゼリゼ大通りの光り輝くクリスマスのイルミネーションles illuminations de Noëlや大晦日の賑わいも見逃せません。

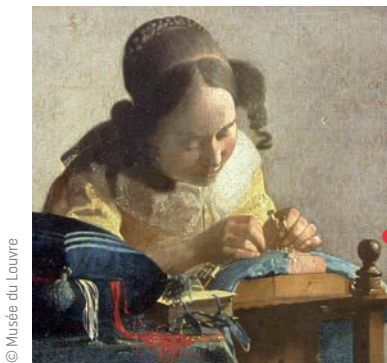
2017年のパリでは、実に多くのたいへん魅力的な美術展が開催されます。ルーヴル美術館ではフェルメール展、マルモタン=モネ美術館とリュクサンブール美術館ではピサロ展、グラン・パレではロダン展、ケ・ブランリー=ジャック・シラク博物館ではピカソ展、パリ市立近代美術館ではバルテュス、ドラン、ジャコメッティの展覧会、ポンピドゥーセンターではセザンヌ展、リュクサンブール美術館ではルーベンス展、そしてグラン・パレでゴーギャン展等々。近代・現代アートファンにも、さまざまな楽しみが待っています。デイヴィッド・ホックニーやアンゼルム・キーファーなど世界の第一線で活躍する芸術家たちの展覧会をはじめ、国際コンテンポラリーアートフェアFiacやアート・パリ・アート・フェアなどの必見アートイベントへぜひどうぞ。

またファッション好きなら装飾美術館musée des Arts décoratifsで開催のクリスチャン・ディオール展へ。デザインに興味がおありの向きにはパリ・デザインウィーク、インテリア業界のパリコレともよばれるメゾン・エ・オブジェMaison & Objet、デザイン蚤の市les Puces de Design、現代の作品とデザインを人々に知ってもらうために始まったデザイナーズ・デイズDesigner's Daysがおおすすめです。

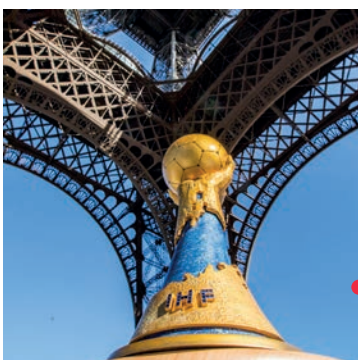
グルメ関連も、フーディングFooding やオムニヴォールOmnivore、美食の祭典la Fête de la Gastronomie、「グッドフランスTous Goût de France / Good France」、「トウス・オ・レストランTous au restaurant (みんなでレストランへ行こう)」と、イベントがもりだくさんです。また今年第2回目となるイベント、テイスト・オブ・パリTaste of Paris (人気料理の試食)にはグラン・パレのネフ展示場にフランスの偉大なシェフたちが集結します。そしてグルメの皆さんは2017年に第1回フェスティバル、レスト・エクペリエンスResto-Experienceに参加できるのです。

スポーツもローラン・ギャロス・スタジアムでのテニス、全仏オープンRoland-Garros、自転車ロードレース、ツール・ド・フランスTour de France cyclisteのゴール、競馬のアメリカ賞Prix d'Amériqueやディアンヌ賞Prix de Diane、パリ・マラソンmarathon de Parisなど、わくわくするイベントが目白押しです。パリは、昨年欧州サッカー連合UEFAの大会「ユーロ2016」の会場となったのに引き続き、2017年もベルシーのアコーホテルズアリーナで男子ハンドボール、アイスホッケー(パリとケルンの2都市開催)およびレスリング、と3つもの世界選手権大会が開かれます。

パリでは2017年も業者向け、一般向けの見本市や展示会が多数開催されます。とりわけ国際農業見本市Salon international de l'agriculture (2月)、ル・ブルジェ空港の航空ショー(6月)、ジャパン・エキスポ(7月)、サロン・ド・ショコラ(10月)には今年も多くの熱心なファンが集まることでしょう。



© Musée du Louvre



© Julian Schlosser



© Projectiles



© DR



© Guillaume de Laubier



© OTCP / Amélie Dupont

パリには新名所が続々 パリには毎年新たな文化スポットが加わり、その魅力はいやがうえにも増えています。2016年12月には香水大博物館Grand musée du parfumがオープンし、フランスが誇る香水という芸術に高貴な位が与えられました。2017年はファッションと音楽が栄誉に浴する年。イヴ・サン・ローラン博物館musée Yves Saint Laurent、およびパリ西郊のセヌ川中州スガン島にはラ・セヌ・ミュージカル La Seine Musicale がオープンします。2017年秋にはラファイエット・アンティシパシオン財団Fondation Lafayette Anticipationがマレ地区に現代アートの創作と展示のスペースをオープンします。パリにはここ3年間に多くの新名所が誕生しています。大規模コンサートホール、フィルハーモニー・ド・パリPhilharmonie de Paris、ストリートアートのArt42、またピカソ美術館、ロダン美術館、人類博物館がリニューアルオープンしました。

輝ける街・パリは第7の芸術である映画とも密接につながっており、いくつもの映画やテレビの連続番組がパリを舞台に撮影されています。まるでオープンエアのセットのようなパリの街を、「アメリカ」や「ミッドナイト・イン・パリ」などの出演俳優や名場面に関連した場所めぐりで楽しむ観光客も数知れません。これらに続くのはハリウッド映画「Befikre」、パリで出会った若いインド人男女のラブストーリーには、ロマンスの芽生える街パリの魅力が満載です。

またパリには各種スポーツ競技会と観戦ファンを最良のコンディションで受け入れる設備がすべてそろっています。アコーホテルズアリーナAccorHotels Arenaではスポーツイベントのみならず各種のショーやコンサートも開催できますが、これに続いてパルク・デ・プランスParc des Princesは2016年半ばにリノベーションを終え、近郊のナンテールではUアリーナU Arenaが2017年秋にオープンします。

パリはその豊かで多様な施設の数々により、業者向けイベントの開催者から非常に高い評価を受けています。見本市、国際会議、企業のイベントに最適なデスティネーションであるパリでは、今後数年の間にさらなる優れたインフラ整備が実施されます(ポルト・ド・ヴェルサイユの見本市会場Parc des Expositions de la Porte de Versaillesの大規模な整備工事、新たな国際会議場のプロジェクトなど)。また革新的なコンセプトで新規オープンした施設の数々は貸切でも利用できます。

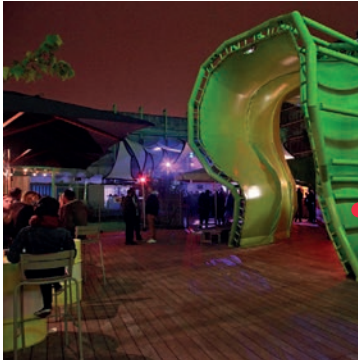
人を引きつける町パリ パリはそのライススタイルを日々新しく塗り替えています。ホテル業界では、全体の収容客数、バラエティーに富んだ施設の数とも増え続けています。パリの評価を高めている超高級ホテルは、パリジャンそしてビジターたちに愛されるようあらゆる努力を惜しみません。老舗のパレス級ホテルでは大改装工事が進み、昨年改装を終えて再オープンしたリッツLe Ritzに続いて、2017年にはホテル・ド・クリヨンl'hôtel de Crillon、リュテシアle Lutétiaが新装再開の予定です。パリ市内には、革新的で驚くようなコンセプトを導入し、テーマを持ったホテルも数多く、まったく新しいスタイルの滞在が経験できます。その例としてロッシュホテル&スパRoch Hôtel & Spa、Mギャラリー・ブテM Gallery Boutet、トラントキャトル・ペーle 34B、ル・ノリンスキーLe Nolinski、トリニテ・オスマンle Trinité Haussmann、そしてまたユニークな初の船上ホテル、オフ・パリ・セヌOff Paris Seineなどが挙げられます。

食の分野でも、シェフたちは新店舗を開いてより創造性に富んだ料理を提供しています。サン・ラザール駅に outlets したエリック・フレションEric Frechon、北駅にはティエリー・マルクスThierry Marxが「エトワール・デュ・ノールEtoile du Nord」をオープン。世界にその名をとどろかす名シェフ、アラン・デュカスAlain Ducasseはといえばレ・アールLes Hallesの「レ・シャンポー Les Champeaux」に続いてヴェルサイユ宮殿の一角にレストラン「オールレ」をオープンしました。フランス国立造幣局に移転し、メタル・カフェで大変身の仕上げをしたギー・サヴォワGuy Savoyの店も話題です。一方« ビストロノミーbistronomie »は、ビストロの精神と美食の絶妙なコラボで、こちらも人気が続中。続々と新しい店がオープンしています。こうした食の新名所は本物の味と地元でとれる素材のエキスパートで、今や立派な旅のテーマのひとつとなり、アラン・デュカスやコルドン・ブルーなど一流校の料理教室やグルメツアーはますます大盛況です。そのほか、バージョンアップしたストリート・フードや、小規模農家から取り寄せた食材を取り扱ったレストラン、豊富な食材が並ぶ市内各地の市場などパリには美味しいスポットがいっぱいです。

パリは今までも、そしてこれからもファッション、高級品、ショッピングの中心地です！ハイライトはといえば春秋のパリコレの時期はもちろん、1月と7月の冬物、夏物のバーゲンもはずせません。年間を通じて旗艦店のオープンや期間限定のブティック、さまざまなアトラクションがお洒落な新物好きたちを惹きつけます。オスマン通りやマレ地区、シャンゼリゼ、モンマルトル、サン・ジェルマン・デ・プレなど世界中の観光客で賑わう地域の店は週末も営業しているため、日曜日でもショッピングが楽しめます。新しくオープンした店もさまざま。ルーヴル美術館の地下街カルーゼル・デュ・ルーヴルCarrousel du Louvreにはまたひとつ魅力的な店が加わり、150店舗を有するフォーラム・デ・アルForum des Hallesは全面改装されました。ラ・ヴィレット地区にはショッピングとレジャーが融合したユニークな施設ヴィラップVill'Upがオープン。高級食品店エディールHédiardの新装再開や、ギャラリー・ラファイエット百貨店シャンゼリゼ店の2018年オープンも待ち遠しいところです。世界のさまざまな有名ブランドは、いずれもますますデザイン性が高く

大胆な趣向を凝らしたスペースを選んで出店し、サービスの質を競い合っています。パリのどの地区にもバラエティーに富んだお店が並び、クリエイターファンからウィンテージファッションファン、またフレンチタッチやエスニックタッチのファッションファンまで、あらゆる客層を魅了します。

夜、パリはさらににぎやかで和気藹々の雰囲気に包まれます。パリのスタイルは、さまざまなジャンルや時代をとりまぜる、というもので、この街ならどんな要望にも応えられるのです。グラマラスな魅力にあふれる伝統あるキャバレーやトレンディーなクラブもあれば、どのジャンルにも収まらないスポットもあり、常設必見の店もあれば臨時開催のソフレもある。パリのナイトライフは実に多種多様です！圧倒的人気のスポットをいくつか挙げれば、プラスリー・バルベスBrasserie Barbès、メゾン・スーケMaison Souquetのバー、ローザ・シユル・セヌRosa sur Seine、ベルシヨワールPerchoir、ポワン・エフェメールPoint Ephemère、ラ・クラリエールLa Clarière、そして最近再建されたエリゼ・モンマルトルElysées Montmartreなど。また公演ラインナップをすっかり一新したサル・プレイエルSalle Pleyelも注目です。ワンダラストWanderlust、ヨーヨーYoyo、バダブンBadaboumなど、パリのナイトライフスポットはますますユニークな場所を選んでオープンする一方、WATO、Surpriseなどの新グループはオリジナリティ全開でパリのソフレに彩りを加えています。ミュージックシーンの重要イベントや名だたるフェスティバルの数々（ロック・アン・セヌRock en Seine、ウエザー・フェスティバルWeather Festival、ウィー・ラブ・グリーンWe Love Green、テクノパレードTechnoparade等々）もお忘れなく。そして2017年には第2回「プライドある人々の2週間La Quinzaine des fiertés」が開催され、和気藹々の雰囲気の中で、LGBTの人々の権利のために活動するさまざまな団体にスポットがあてられます。



© OTCP / Amélie Dupont



© OTCP / Amélie Dupont

エコレスポンシブルを大切にす町パリ 460もの公園や庭園を筆頭にパリには観光客も体験できるエコロジーのあらゆる切り札がそろっています。特に交通機関には力が入られており、整備されたバスレーン、トラムウェイの路線拡大、誰でも自由に使えるレンタサイクルサービスのヴェリブVélib'や、自動車のカーシェアリングシステム、オートリブAutolib'のネットワーク拡大、開設100年を迎えながら大変便利で使いやすい16路線の地下鉄など、きわめて充実しています。市内で歩行者専用となったところとしてはセヌ河岸道路（左岸は2013年から、右岸は2016年9月から）、レピュブリック広場があり、よりエコでダイナミックな新しい都市のヴィジョンに答えています。パリのホテル業界も環境保護により多くの配慮をするようになりました。今ではパリ観光会議局の「持続可能な宿泊施設」憲章に加盟するホテルは455軒にのぼります。2015年末には世界の首脳がパリに集まって国連気候変動枠組条約パリ会議 Paris Climat COP21が開催されました。素顔のパリを訪ね、交流したいと願う人たちにとって、住民同様の「パリ風」生活体験はかつてないほど容易になっています。

パリはまたあらゆる人に開かれた町、誰をも受け入れ、適応している町です。障害のある人にもアクセスしやすい町であるためにさまざまな方策がとられ、設備の充実もたゆみなく進んでいます。最近オープンあるいは再オープンした施設ではピカソ美術館、フィルハーモニー・ド・パリ、ルイ・ヴィトン財団美術館、ロダン美術館がそのよい例です。

変化する町パリ パリは毎日少しずつ、境界線を外に広げています。まずバーチャルな面では、パリには公共の場所、公園・庭園、カフェ、文化施設などに無料Wi-fiのネットワークがあり、シャンゼリゼ通りChamps-Élyséesも今や全域でコネクできます。また観光の分野全般で、パリを訪れる人たちに革新的な経験やサービスを提供するためのあらゆるイニシアティブがとられています。こうしたさまざまなプロジェクトは、とりわけ世界初の観光関連起業のインキュベーター、ウェルカム・シティ・ラブWelcome City Labにおいて進められています。ル・カーゴLe Cargoも挙げておきましょう。立ち上げてまだ日の浅い革新的な企業、デジタルコンテンツやクリエイティブ産業関連の企業を促進するプラットフォームです。

また地理的な面でいうと、公共交通網の拡充ともあいまって、パリは近隣コミュニティとのつながりを深めています。パリ北東部は、18区と19区をサン・ドニSaint-Denis とオベルヴィリエ Aubervilliersの方へ広げ、パリ東部は、新しい境界線をリラ門La porte des Lilasよりも外に描こうとしています。野心的な都市計画や建築も見どころで、新しい高層建築の数々（パティニョル再開発地区の新裁判所nouveau Palais de Justiceなど）は未来の世界を築く都市としてのパリの地位を確固たるものにしていくのです。このような活力の証としてもうひとつ挙げられるのはレアンヴァンテ・パリRéinventer Paris（パリに新たな価値を付与）です。パリの23か所の革新的都市計画プロジェクトを募集するもので、明日のパリの姿を予見させてくれます。



© Fondation Louis Vuitton / Iwan Baan

データで見るパリ

© Paris Aéroport / Emile Luidier - La Company



パリの観光に関するデータ

- 2つの飛行場：ヨーロッパ第一のハブ空港。6つの駅は外国の都市とつながっている
- 2時間15分：パリ-ロンドン間
- 6時間25分：パリ-バルセロナ間
- 23 500台：自由に使えるレンタサイクルサービス「ヴェリブ」の台数
- 110000室以上：ホテルの客室数
- 297：メトロの駅の数。13分：パリを横断するのにかかる時間

パリを選ぶにはこんな理由も

- 物価の安さ
 - サンドイッチ：5€ / クロワッサン：1€
 - コーヒー：2€ / セットメニュー：15€
 - メトロの切符：1,90€
 - 20を超える美術館・博物館が入場無料。
- 豊富な文化遺産
 - 37の橋、
 - 10 100トン：エッフェル塔に使われている鉄鋼の量
 - 465の公園や庭園
 - 2 000種の動物
 - 6 500年の歴史。
- 充実した文化施設
 - 200：チュイルリー公園の彫刻と鉢植え樹木の数
 - 36 000：ルーヴル美術館で展示されている作品の数
 - 200の教会
 - 1360万人がノートルダム寺院を訪れる。
 - 毎日15000人がルーヴル美術館でモナリザの前を通る
- ショッピング
 - 17 500軒のショップ、4つのデパート
 - ヨーロッパ域外からの観光客には12%の免税
 - 年に82日間バーゲンが行われている。
- イベント
 - 一日に300以上のイベントが開催されている
 - ニュー・ブランシュでは130万人が街に出るパリ。
 - プラージュでは3 000トンの砂が使われる。
- 多種多様な娯楽
 - パリのオペラ座では450もの上演が行われる
 - 10 000軒のバー、レストラン
 - 毎日500本の映画が上映されている
 - 5738軒のレストラン
 - 毎日100のクルージングが発航する。
- アート、ファッション
 - 25 000人のアーティストがパリで活躍している
 - パリでは毎日10以上の口ケが行われ、画面に登場する場所は5000か所
 - ファッション関連の見本市には100カ国以上が出展
 - パリ13区のストリートアート街を歩けば25のフレスコ画
- ビジネスの会合
 - 2015年には1004にのぼる会議を開催
 - 15の会議場、展示場
 - 展示スペースは600 000 m²以上

© OTCP / Amélie Dupont



© OTCP / Amélie Dupont

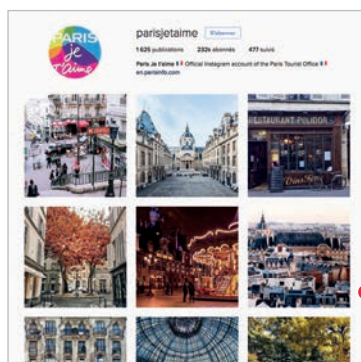


パリ観光・会議局

世界最大の観光都市であるパリは、古い文化遺産だけでなく、流行の最先端をとりいれるスタイルゆえに、多くの人々を惹きつけます。パリ観光・会議局は、パリ観光に役立つ情報をご提供いたします。



© OTCP / Marc Bertrand



データ

- 3つの主要な任務：観光客を迎えること、情報を与えること、観光プロモーション。
- 50万人以上が毎年市内各地の観光案内所に来場。
- パリ観光・会議局本部にある全面改装された案内所はパリの中心部、ルーヴル美術館とオペラ座の間にあります。住所：25, rue des Pyramides, Paris 1er
- パリ市内4か所の出張所でも観光客を迎えています。

北駅、アンヴェール駅、東駅、パリ市庁舎内「パリ・ランデヴュー」(Paris Rendez-vous)

- 2016年には毎月100万セッション、80万のアクセスがインターネット・サイト PARISINFO.com にありました。4つの主要サイトは、フランス語、英語、スペイン語、ドイツ語。7つのミニサイトは、イタリア語、ポルトガル語、オランダ語、ロシア語、中国語、日本語、韓国語。

- SNSアカウント「Paris je t'aime (パリ・ジューテム)」からの発信も(2016年末より)

- Facebook – 314,000 ファン
- Twitter – 146,000 フォロワー
- Instagram – 231,000 フォロワー

- 10か国語による無料ガイドマップ120万部を発行。英語とフランス語の一般向け無料ガイド30万部以上。

- パリの街歩きガイド - Paris le City guide
- パリのガイド付き見学 - Paris Visites guidées
- アクセスしやすいパリ(障害のある旅行者のための各種情報) - Paris accessible.

旅行業者、プレス向けツール

- フランス語、英語、スペイン語、ドイツ語によるフォトライブラリーパリの多様な魅力を伝える5000枚の高画質写真をそろえております。メディアの記事やパンフレットにご利用下さい。

- 数か国語で書かれたプレスリリース

- 総合インフォメーション資料「パリ2017 Paris 2017」:

- フランス語、英語による資料3種「芸術と文化 Arts et culture」
- 多国語による資料5種「ライフスタイル Art de vivre」
- フランス語、英語による資料3種「シーズンごとのパリ情報Paris en toutes saisons」
- フランス語・英語による資料4種「オーダーメイドのパリ Paris sur mesure」

- 英仏2か国語によるニュースレター1種類 ParisNews

- プレス専用サイト 1種類 – press.parisinfo.com

- パリのポスター4種類 (60×80cm)

パリ観光会議局プレスコンタクト

+33 (0) 1 49 52 53 27 • press@parisinfo.com

詳細情報: <http://press.parisinfo.com>

フォトライブラリー: <http://pro.photos.parisinfo.com/en/>